わくわくフードプロジェクト

地域から

人も地球もわくわくさせる 食 をつくろう！

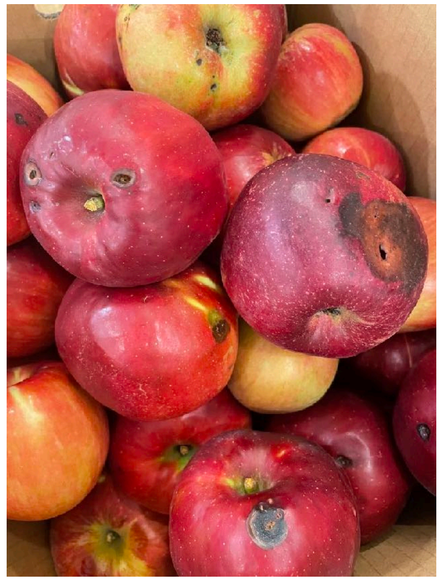
我楽田工房
GARAKUTAKOBO

おいしく食べることは
誰かの役に立つことなんだ

例えば、こんな食を作ってます

オラングラノーラ

朝も忙しいママが農家と専門家と一緒に開発



例えば、こんな食を作ってます

らくしてごはん

いつもおいしく、災害時でも役立つ

わたしたちは、
ただ単に商品を作って売りたい
わけではありません。

わくわくする食の体験を通して

いまを楽しく、みらいをつくりたい

背景

人も課題も分断されている

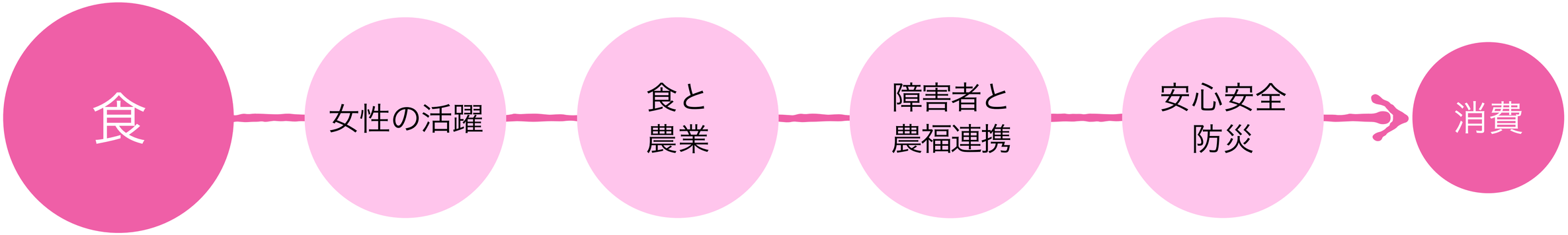
女性の活躍

食と
農業

障害者と
農福連携

安心安全
防災

「食」が生み出す場が
地域の課題をひとつにつなげる



地域の課題を 価値 へと変える

女性の活躍

企画

都内の女性が集まり
食のメニューを考える

食と
農業

調達

破棄される農産物を
活用する

障害者と
農福連携

製造

福祉施設と連携して
商品化する

安心安全
防災

展開

防災イベントなどで
消費する

我楽田工房・グラノーラ x SDG's ワークショップ

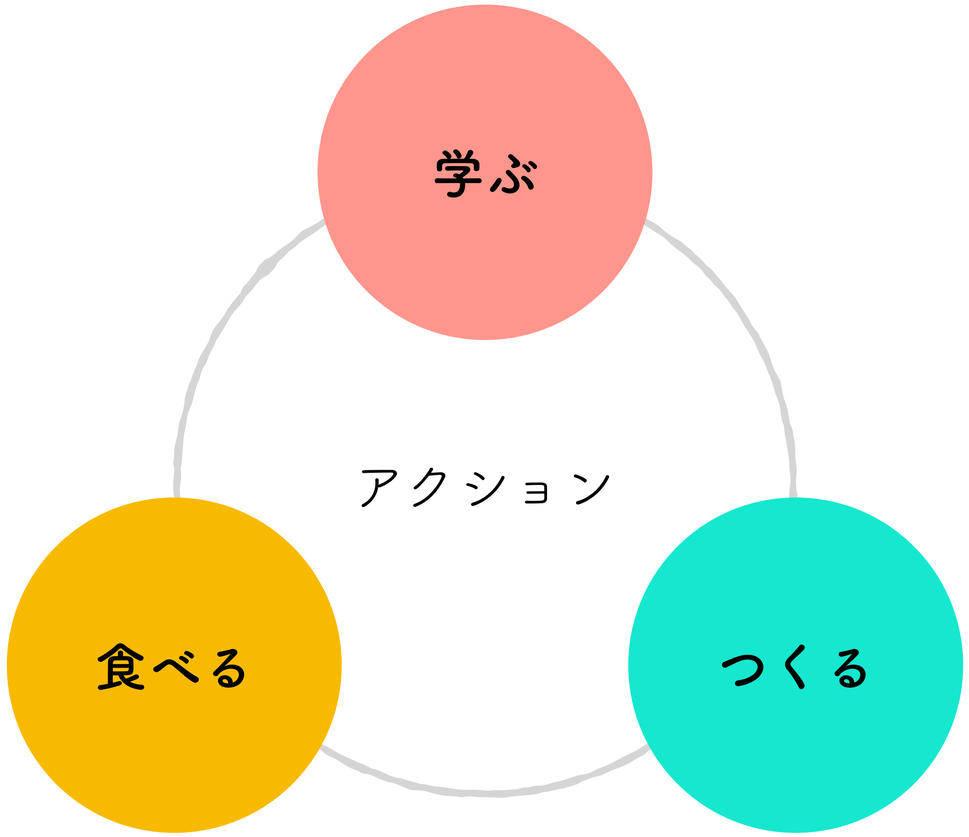
【文京区】町内会の防災啓発イベント

【文京区・地域まつり】防災カフェ出展

【長野県箕輪町】防災と食のワークショップ

【我楽田工房 x 文京区 x 天龍村】都市農村交流・防災カフェ

どうやって作るのか



食べる

わくわくフードを食べる場づくり活動

子供からお年寄りまで、気軽においしく食べる場

試食会で

イベントで
（防災カフェ、お祭り）

家庭で

防災備蓄で

まちのお店で

学ぶ

食や地域の課題をともに学ぶ活動

成長したい人たちが学びあう場

メンバー交流

勉強会

生産者との交流

試作会

つくる

わくわくフードを研究・開発する活動

本気でビジネスをつくりたい人が挑戦する場

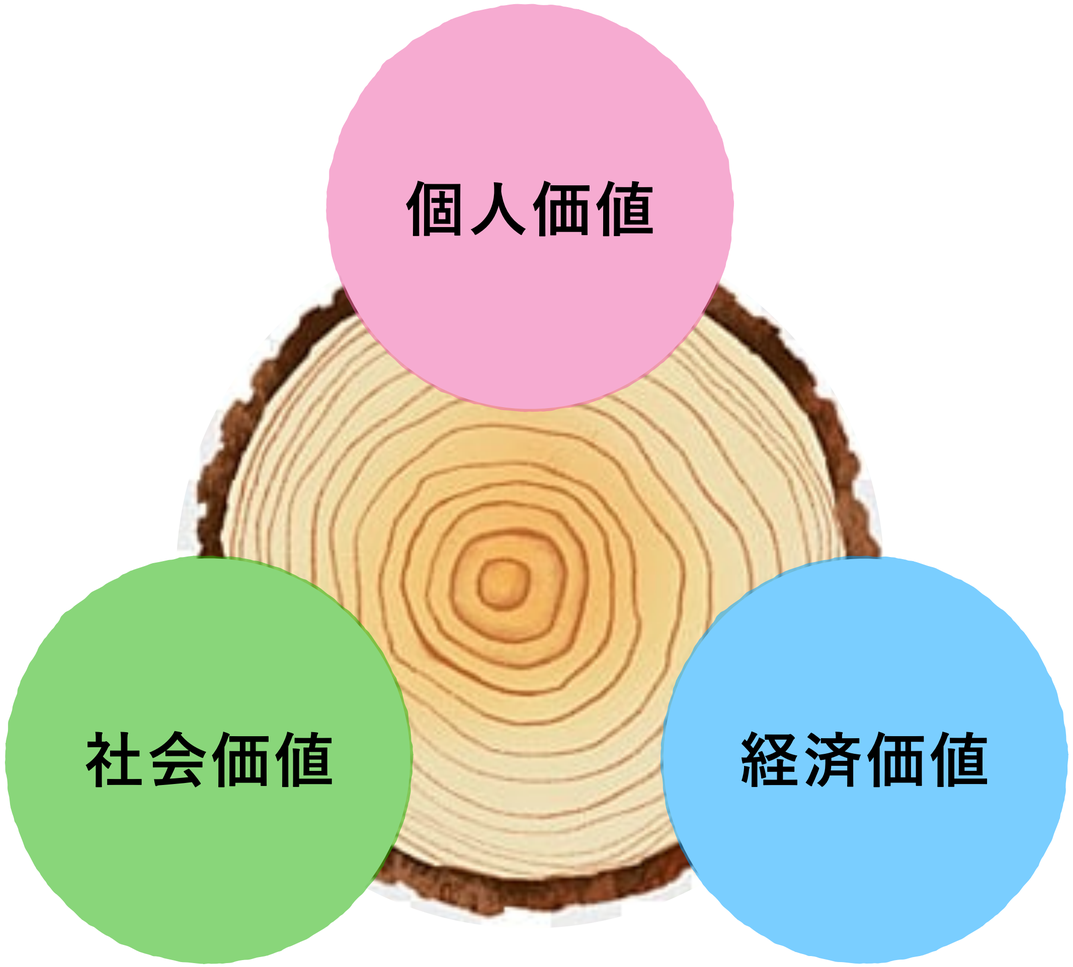
調査研究

商品開発

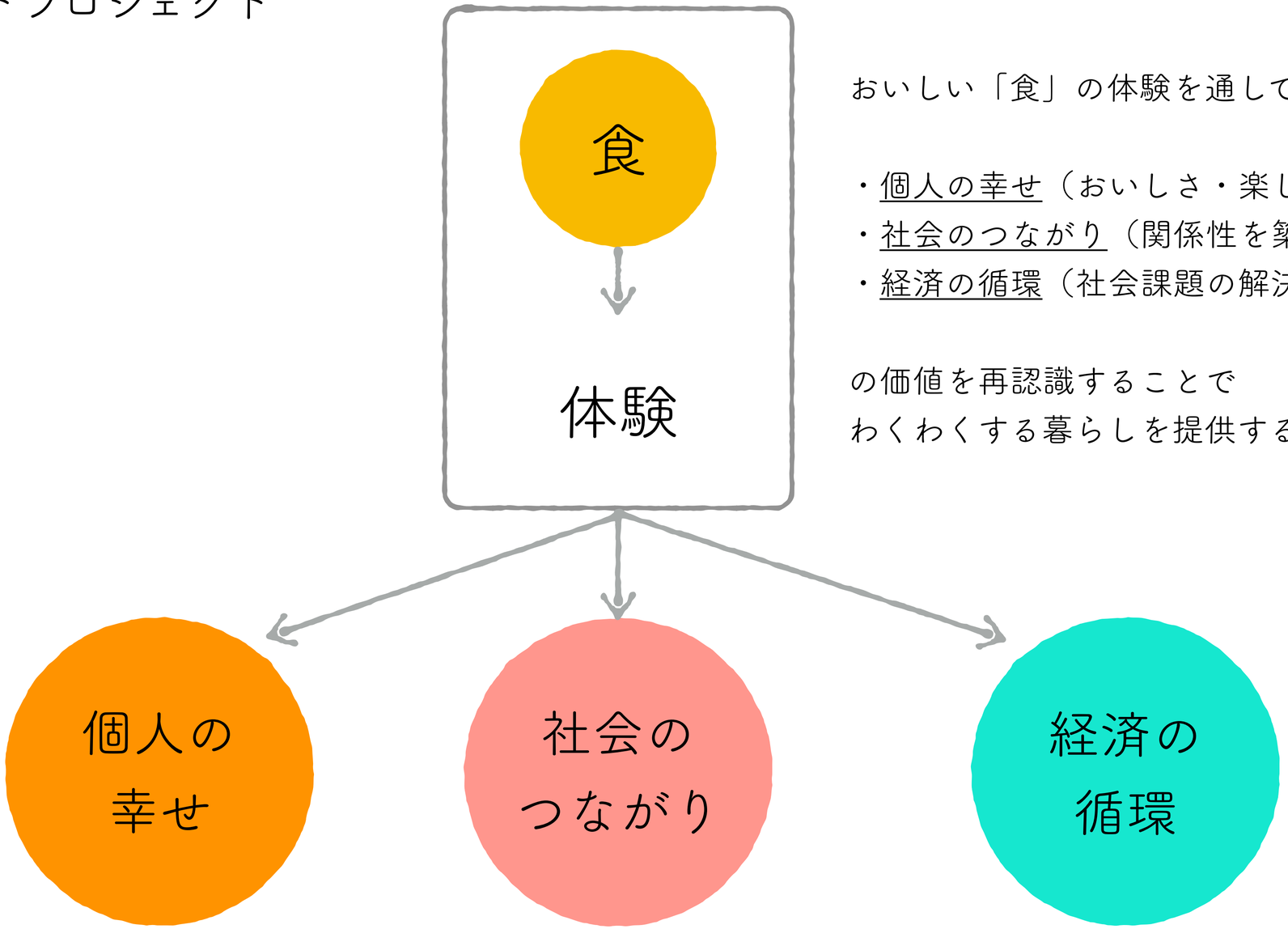
デザイン・制作

製造販売

私たちが目指す価値共創



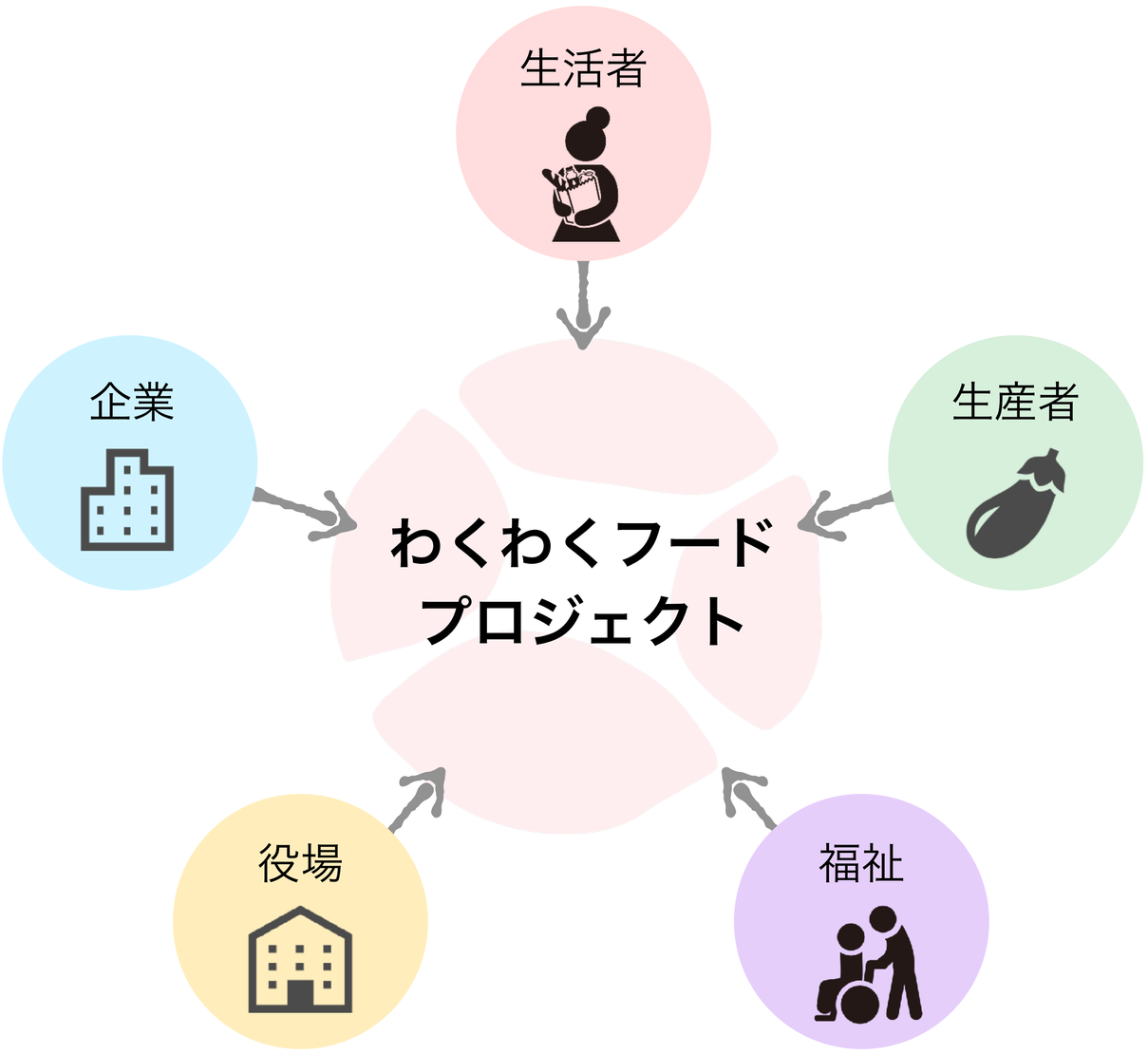
わくわくフードプロジェクト
ビジョン



おいしい「食」の体験を通して、

・個人の幸せ（おいしさ・楽しさを共感する）
・社会のつながり（関係性を築く、多様性）
・経済の循環（社会課題の解決、価値づくり）

の価値を再認識することで
わくわくする暮らしを提供する。


生活者
企業
生産者
わくわくフード
プロジェクト
役場
福祉

ママを応援する
グラノーラを
広めたい

もったいない
ヒト・モノ・コトに
命を吹き込みたい

自分の力を
思いっきり
発揮したい

ありがとうございました！

身体にも地球にも
やさしいことを
追求したい

地域に
おいしい食卓を
届けたい

美と健康のことを
みんなに伝えたい

音楽の力で
子供とママたちを
元気にしたい

我楽田工房のバリューチェーン

更新日：2022.01.30

PURPOSE：わくわくする生き方をつくる
CORE VALUE：楽しい/Happy　挑戦/Start-up　多様性/Diversity　今/Just Now　未来/Sustainable
IDENTITY：やってみる・実験する

VISION：今を楽しく 未来をつくる
MISSION：食べる・学ぶ・行く・つくるで、わくわくの連鎖を起こせ！
TAG LINE：東京 1.0 はじまりのまち （我楽田工房の目指す世界）

資源調達の付加価値

東京と地方を一体に考え、双方に眠っている地域資源（ヒト・モノ・コト）を発掘して活用する。

地域課題さえも資源として考える。

クリエイティブの付加価値

生活者の一人ではできないことを、多様性ある生活者・地域・事業者を巻き込み、「つくり手」となってまずは楽しんでやってみる。

流行にとらわれず、本質を追求する。

ロジスティクスの付加価値

大量生産、大量消費を目指すのではなく、必要な時、必要な量、必要な人へ確実に届けられる持続的な仕組みを構築する。

マーケティングの付加価値

社会的にも経済的にも「わくわくする生き方」を広めることに重点を置く。

わくわくするプロセスを共有し、百年後も愛される価値をつくる。

アウトバウンドの付加価値

「つくり手」が、どうわくわくしているのか。

そのわくわくの熱量が、ファンにどう伝導しているのか。

コミュニティの付加価値

我楽田の価値観に共感して応援する生活者をファンと定義。

ファンが「つくり手」のわくわくに反応・連鎖することで、新たなわくわくの「つくり手」を増やしていく。

インターナル（価値浸透風土作り）

わくわくするのか、を最大の価値観に置く。

まずは楽しんではじめた先に「わくわく」の熱量が生まれる。その熱量が伝わったファンと共にわくわくする生き方をつくる。

R&D（研究開発）

わくわくを生み出すための「場づくり」を実験し、必要な要素（ヒト・モノ・コト）を追求していく。

つくり手の顔と背景が可視化できないコトはやらない。

ステークスホルダー（調達活動）

都市と地方が一体となり、生活者と事業者が同じテーブルに座ることで、自分と社会と地球をよりよくする価値をともに考えともにつくる。

生活者（生活するすべての人々）
事業者（企業・生産者・自治体）